

今年で何年？ はい、60年です。

今から60年前の昭和31年、標茶町と厚岸町にまたがる広大な荒野に、大森林を造るパイロットフォレスト造成計画が始まりました。昭和31年とは、どんな時代だったのか？調べてみると。

・東海道本線の全線電化が完成。ダイヤ改正が行われ、東京と大阪の所要時間が8時間から7時間30分に。東京と博多の特急「あさかぜ」登場。当時の特急は本当の特別急行列車で、特急券の値がありましたが、電機機関車・蒸気機関車がなくなり、客車です。その特急も「つばめ」「はと」（東京と大阪）「かもめ」（京都と博多）「あさかぜ」の全国で4列車だけ。

・黄色（オレンジ？）のパッケージが懐かしいタバコ「いこい」が販売開始。価格が40円。（今日も元気がたばこ）
・「はと」「いこい」のポストターのたばこ

・原田康子さんの「挽歌」が出版されベストセラーになる。（翌年映画化）

・北海道釧路家政高等学校が、北海道釧路星園高等学校に校名変更。（当時は釧路市住吉町にありました）
などなど。

日本一の幹線鉄道の電化が完成。一般的なタバコが40円の時代です。機械力が乏しく、作業によっては、人力や馬力が主役だったのが想像できます。そんな時代に、人を寄せ付けない湿地に道路を開拓するところから始まったパイロットフォレスト。どなたも、作業にあたった人達は、植え森を造るといふことは、苗木を保育作業、気象害や病害虫対策、野火事予消防など様々な作業が延々と続きます。この作業を1つでも怠れば、木は育たず、森林にはなりません。荒野に約1万haの森林を造る偉業を成し遂げ、森林が周辺や下流域の環境に大きく関わっていることを証明したパイロットフォレストは造成60年目を迎えました。60年の歳月は長く、東海道線に「つばめ」「はと」等の姿は無く、人気のあつた「いこい」も生産終了。星園高校も他校と統合され廃校となりました。パイロットフォレストも還暦で定年退職でしょうか。森林に定年はありません。これからも適切な管理を行い、森林の持つ様々な有益な機能を継続させるため、間伐の実施や木を切った箇所には新たに苗木を植え、天壤無窮の森林としなくてはなりません。

今後の予定

* 12月2日（金）
再生普及推進のための連携チーム会合

* 12月3日（土）
白糠町・白洋大学・白糠町ふるさと未来塾交流事業

* 12月14日（水）
釧路湿原エゾシカ対策検討会議

* 12月16日（金）
釧路湿原自然再生協議会第16回 再生普及小委員

* 管内の自然情報の収集や情報提供を行うため、更新してまいりますので是非ご覧下さい。

パイロットフォレスト造成60周年

山川草木轉荒涼

昭和31年

江 碧 鳥 愈 白
山 青 花 欲 然

平成28年

林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11

【IP】050-3160-5787 【TEL】0154-44-0533 【FAX】0154-41-7305

【E-mail】h_kusiro_f@maff.go.jp

【URL】http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html



国民の森林・国緑



当センターは、国有林をフィールドとして、北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に取組むNPO等の活動支援、森林環境教育等に携わる教育関係者の支援・技術指導等を行っています。